

## 特別賞

### 生き物と自然のつながり

六本木中学校 大川 美幸

私の家には、小さい時から小学五年生ぐらいの時まで、ずっと何かしらの動物がいた。しかし、その動物たちは普通の寿命よりも早く死んでしまった。

小学五年生の時に、私はモルモットを飼っていた。通常モルモットは、六、七年生きる。だが、私の飼っていたモルモットは一年ちよつとで死んでしまった。でも、私にはその理由が分かる気がする。ケージの前に洗濯物が干してあったり、夜、テレビの音がうるさかったり、煙草の煙がケージの方へ行ってしまったりするからだと思う。そのストレスからか、喉におできみたいなのが出てきてしまい、ご飯が食べられなくなり死んでしまったのだ。これは、私たち家族の責任だったと思う。もう少し、ああしていれば・・・。こうしていれば・・・と、後からどんどん後悔の気持ちがこみあげてくる。

その後、また動物を飼おうかという話も出たが、私は、「飼わないほうが良いと思う。」と言った。私の家は動物に適していないと思ったからだ。前にも書いたように、家の前をたくさん自動車が通るから空気が綺麗ではないし、ちようど太陽の光が入らない所に家があるからだ。こんなに生き物に適していない場所で

生き物を飼い、はやく死なせてしまうのはとってもかわいそうなことだ。

自然界の動物たちは自分に適している住家を自分自身で探し、心地よい生活を送られる。だが、今の地球の環境では心地よく過ごすのも、困難とされている。例えば、川に住んでいる魚たち。昔は、とても綺麗に澄んだ川で優雅に泳いでいたはずだ。それが今は、汚染された川の中で息苦しく、外来種と一緒に暮らしている。そうすると、生態系が崩れる恐れがある。

このように、生き物と自然は大きなつながりがあるのだ。その環境を壊さないために、私たちはどういう工夫をすれば良いのだろうか。

まず、川にごみを捨てないことが大切だ。飼っていたペット（外来種など）を捨てるのは、もつてのほか。もし自分がその川に住んでいたらどれだけ苦しいかを考えれば、自然とごみを捨てなくなると思う。それに、汚染された川の嫌なおい。見た目の気持ち悪さ。こういうことで、私たち自身にも被害があるのに・・・。何故、こんなにも生きづらい環境をつくってしまうのだろうか。

つまり、人間以外の生物は、本当に気の毒だということだ。人間の自己中心的な行動により、生態系に支障が出る。動物たちは何も悪いことをしてないし、人間に迷惑もかけてないのに。私も含めてだが、もう少し生物、環境への関心をもった方が良いと思う。一人一人が少しずつ改善していくだけで、この世の環境はどれだけ変わるのだろうか。また、生きものたちはどれだけ生きやすくなるのだろうか。